

昨今、税金の使われ方について賛否の声をよく耳にする。今、多くの人々が、会社が、地域が国の支援を必要としているからだ。

私たちは、かつて経験したことのない困難に直面する日々を過ごしている。打ち勝つ方法が確立されていないウイルスとの闘い、何度もやってくる災害からの復興に身をすり減らしながら生活している。あきらかに変化してしまった日常。その中で、私たちの学校生活も大きく変わってしまった。

私は陸上部に所属している。三年生で、今年が最後の集大成の年となるはずだった。短距離のシーズンがやってきたと思ったとたん大会は次々と中止になり、部活動も制限され、走ることさえ出来ない日々が続いた。でも、仕方がないこと。それは私たちだけじゃない。日本中、世界中で同じ悔しさを味わっている人がいるのだから。

そんな中、とうとう今年初めての大会が決定した。八月の選手権大会。当日は、観戦の方々の制限があり、観客は少なかったものの、大会運営のスタッフは逆に多いように感じた。そうだ、コロナ禍の中で大会開催の為に尽力されている人たちがいるんだと改めて感じた。

国の補助事業をうけて成り立つものが多くある中で、このような陸上大会もその中の一つだということは分かっている。競技場の維持にも運営にも税金が使われている。それに加えて今年の大会は、感染症予防の対策費もかかっている。また、三十度を超える気温の中、熱中症で倒れてしまう人も出てしまい、何台もの救急車が会場を出入りした。大会を開催するに当たって、人の力はもちろん、多くの税金が使われているのだ。私たちのこれまでの努力が報われる場所を、夢や希望を持てる場所を、このような形で用意していただいていることに感謝したい。今年は三つの大会に出場することができ、私は、全力で悔いなく陸上競技を終えることが出来た。

多くの人が支援を必要としている中、要望に対して、国や県は様々な対策をとっている。十万円の特典定額給付金の配布、持続化給付金、学費支援、税金の減免や支払いゆう予など。私たちの命と生活を守る為に、税金は大切な役目を果たしている。税金の使われ方に賛否両論ある中で、確かにそんなものが必要ない、そんな使い方は納得できないと思うところもあるだろう。実際私もそうだ。しかし、今大会のような場所を与えていただいたおかげで、コロナ禍の中での生活は、悔しい思いをしていただけた不安な日々ではなくなった。同じように救われた人が多くいるはずだ。

終息の兆しが見えず、不安が続く中で、私たちは一生懸命に生きなければならぬ。これまでどおりにはいかないだろう。失うものも多いだろう。でも、心は潤っている日々を過ごしていきたい。